

日頃の心構え

① 天気予報や気象状況に気をつける

台風シーズン等の洪水の起きやすい時期には、天気予報に注意し、各種注意報、警報は、テレビやラジオ、防災行政無線で流れるため見落としのないよう注意しましょう。



② 非常食や持ち出す物を準備しておく

災害発生時に持ち出す物を家族構成にあわせて、必要最小限に絞り込み非常用持ち出し袋等に入れ準備しておきましょう。
また、被災後の生活を支えるために、一人あたり3日分程度を目安にして食料、水、生活用品等の備蓄品を準備しておきましょう。

生活用品	☐ 携帯ラジオ ☐ 電池 ☐ せっけん ☐ タオル ☐ ろうそく	☐ ライター ☐ 洗面用具 ☐ 万能ナイフ ☐ 軍手 ☐ 靴・スリッパ	☐ カセットコンロ ☐ ひも ☐ 布ガムテープ ☐ レジャーシート ☐ 新聞紙	☐ 燃料 ☐ カップ ☐ バケツ ☐ 紙食器	☐ 懐中電灯 ☐ 裁縫道具 ☐ 生理用品 ☐ ティッシュ
貴重品	☐ 現金 ☐ 証明書	☐ 保険証 ☐ 各種カード	☐ 預貯金通帳 ☐ 家・車の鍵	☐ 印鑑	☐ 免許証
食料品	☐ 水(10ℓ/人) ☐ カンパン	☐ レトルト食品	☐ 缶詰	☐ カップ麺	
医薬品	☐ 消毒液 ☐ 常備薬	☐ 包帯 ☐ 湿布薬	☐ かぜ薬 ☐ 胃腸薬	☐ 傷薬	☐ 絆創膏
衣類	☐ 着替え用肌着 ☐ 着替え用衣類・靴下	☐ 帽子	☐ マスク	☐ 毛布	
赤ちゃん用品	☐ 粉ミルク ☐ 紙おむつ	☐ 肌着・衣類	☐ おんぶ帯	☐ 哺乳びん	

③ 避難所や避難路を確認しておく

地区ごとに、緊急・災害時の避難場所が定められています。自分の地区の避難場所がどこなのか、そこへ安全に行くための避難路はどこなのか、家族が離ればなれになったときの連絡方法を、家族会議を開いて普段から確認しておきましょう。



④ 家の周りを点検整備しておく

家の周りに風で吹き飛ばされそうな物や壊れそうな物、窓や雨どいなど修理が必要な物がないか確認しておきましょう。また被害を最小限にするため排水溝の整備点検や、避難路に邪魔な物がないかの確認もしましょう。



⑤ 災害弱者の立場で防災環境を点検整備しておく

心身にハンディキャップのある方やお年寄り等の弱者の方は、普段から隣近所との交流を保つよう心掛け、いざというときの援助を依頼しておきましょう。足や耳、目の不自由な人への警報や避難勧告の伝達方法など弱者防災に対応できる地域づくりをしましょう。

緊急時の心構え

① 市からの避難勧告、指示には速やかに従う。

川の増水は短時間で一気に危険な状態になります。避難命令が出るということは既に相当危険な状況です。無視しては命に関わりますので速やかに指示に従い避難等しましょう。



② 避難時は単独行動をしないで、みんなと一緒に行動する。

単独での行動は、もしもの時に助けが来るのに時間が経過したり、命に関わる惨事を招きかねません。緊急時には何人かで固まって行動しましょう。

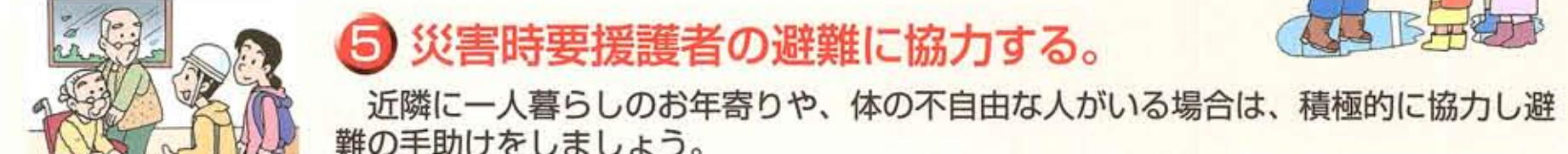


③ 持ち出す荷物は最小限に、身軽に動けることを優先する。

必要最小限の物だけを持ち出し、機敏に行動出来るような体制で避難しましょう。

④ お年寄りや子どもを優先し、落ち着いて行動する。

避難時にあわてると、お年寄りや子ども、女性などの力の弱い者が危険な目に遭うことが少なくありません。落ち着いて弱い者を優先に避難行動をとります。

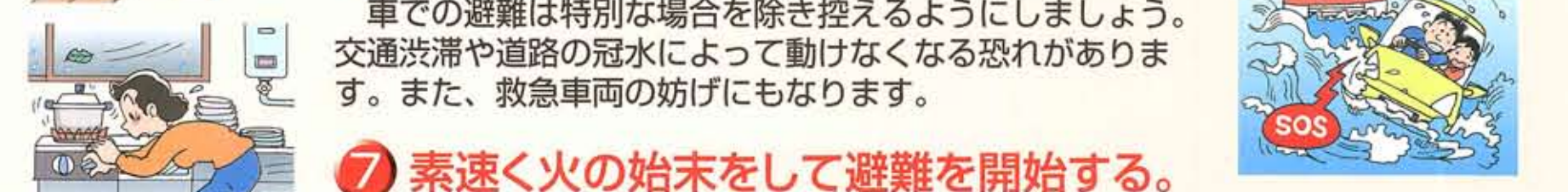


⑤ 災害時要援護者の避難に協力する。

近隣に一人暮らしのお年寄りや、体の不自由な人がある場合は、積極的に協力し避難の手助けをしましょう。

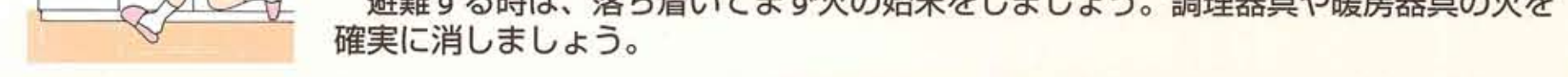
⑥ 車での避難は控える。

車での避難は特別な場合を除き控えるようにしましょう。交通渋滞や道路の冠水によって動けなくなる恐れがあります。また、救急車両の妨げにもなります。



⑦ 素速く火の始末をして避難を開始する。

避難する時は、落ち着いてます火の始末をしましょう。調理器具や暖房器具の火を確実に消しましょう。



新宮市（熊野川流域）洪水ハザードマップ

あなたの地域の避難所を今一度確認しておきましょう。

戦後最大流量である昭和34年の伊勢湾台風の降雨量をもとに、熊野川相筋上流堤防が破堤し氾濫した場合を想定し、浸水の状況をシミュレーションしたものです。

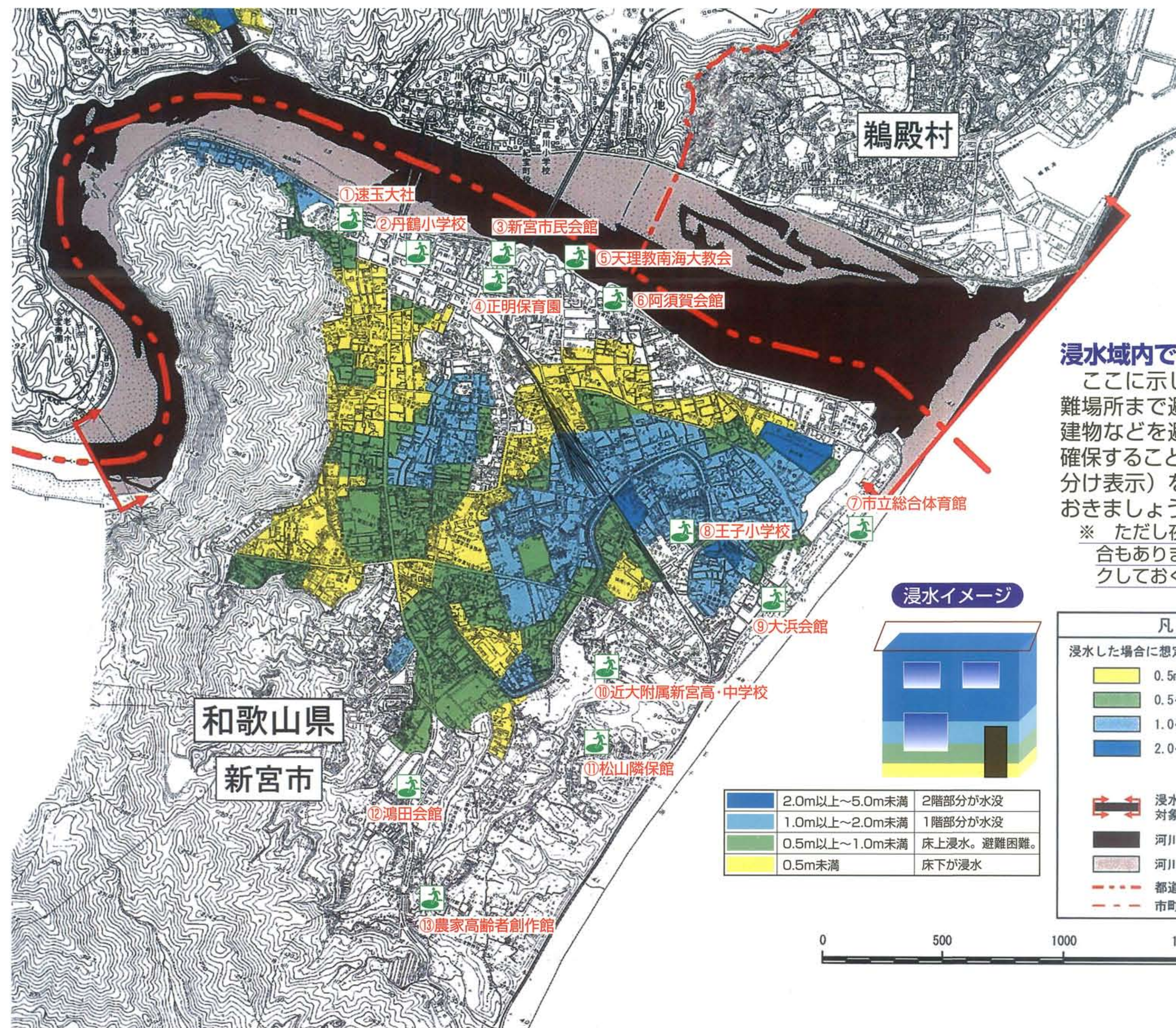
水害の恐れのある時には、市から避難勧告や避難指示が出されますので、この地図を参考にして速やかに安全な場所へ避難してください。いざという時のために日頃から家族で申し合わせ、安全な避難場所を決めておきましょう。

なお、地図に示した浸水範囲以外にも雨の降り方によっては浸水する場合がありますので注意してください。

新宮市防災啓発イメージキャラクター



「しんちゃん」



浸水域内での避難場所を日頃から確認しておきましょう！

ここに示した洪水による浸水予測地域内で、指定された避難場所まで避難出来なかった場合でも、浸水域内にある高い建物などを避難場所として利用することにより、身の安全を確保することが出来ます。日頃から地図に示された浸水深（色分け表示）を参考にして、高い建物や高台などの確認をしておきましょう。

※ ただし夜間に洪水が発生した場合には建物内部に進入出来ない場合もありますから、建物の場合はいつでも避難出来る建物をチェックしておくことも必要です。

浸水イメージ



凡 例	
浸水した場合に想定される水深(ランク別)	
0.5m未満の区域	0.5m未満の区域
0.5～1.0m未満の区域	0.5～1.0m未満の区域
1.0～2.0m未満の区域	1.0～2.0m未満の区域
2.0～5.0m未満の区域	2.0～5.0m未満の区域
2.0m以上～5.0m未満	2階部分が水没
1.0m以上～2.0m未満	1階部分が水没
0.5m以上～1.0m未満	床上浸水。避難困難。
0.5m未満	床下が浸水
浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川	
河川	河川
河川等範囲	河川等範囲
都道府県界	都道府県界
市町村界	市町村界



避難場所一覧

①速玉大社	新宮1 22-2533
②丹鶴小学校	下本町二丁目2-1 22-8424
③新宮市民会館	新宮7696 22-2227
④正明保育園	新宮7694 22-3585
⑤天理教南海大教会	池田一丁目1-26 22-2275
⑥阿須賀会館	阿須賀一丁目2-25 22-3986
⑦市立総合体育館	王子町三丁目13-23 22-3956
⑧王子小学校	田鶴原町二丁目10-1 22-8431
⑨大浜会館	王子町三丁目6-8 21-3489
⑩近大附属新宮高・中学校	新宮4966 22-2005
⑪松山隣保館	新宮4643-136 21-6272
⑫鴻田会館	新宮3701-4 23-2033
⑬農家高齢者創作館	新宮2518-3 23-1422